

# 宿縁

六月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗  
本願寺派  
**中原寺**

TEL 〇四七—三七二—〇二九二  
FAX 〇四七—三七二—〇二六二

## 相対的善悪からの 脱皮



いっこうに国際紛争は止まずあちこちでテロは激しさを増し、自国を最優先する保護主義が目立っています。

歴史的に見ても、世界中は依然としてエゴ丸出しの争いが続いています。その上、世を救うべき存在と思われる宗教間に、根深い対立と抗争が繰り返されていることは悲しむべきことです。

ここで仏教の教えを通して私たちはどうあるべきかを考え行動したら良いのかを探ってみたいと思います。

エゴの正体とは何でしょうか。仏教のある経典の中に、善と悪を説いたものがあり、「第一義諦(ぎたい)に順ずるを善といい、第一義諦(ぎたい)に背くを悪という」とあります。第一義諦というのは、「すべてのものが本来的に平等である」ということです。人間も犬も猫も植物も一切のものは本来的に全部平等です。人間だけが尊いということはありません。それなのに人間より獰猛な動物がいると思っています。以前、ニュウヨークだったかある動物園の檻にこんな表示がされた檻があったというのを聞いたことがありました。「世界一危険な動物!」。どんな恐ろしい動物がいるのか、恐る恐る覗くとそこには大きな鏡があるだけです。もう判りますね。覗いたあなた「人間!」が最も恐ろしく獰猛だということです。自然界の動植物を絶滅の危機に追いやり、挙句は自分たちが生きていこうとすることすら困難な状況にしていることに気づかないのです。仏教は人間が万物の霊長だと申しません。人間は、煩惱ゆえに複雑な存在、始末がつかない存在というだけです。「すべてのものが本来的に平等である」ということに、背を向けて生きているのが私たちです。人間は状況が変われば戦争などで大量虐殺を実行します。正義の名の下に、平和の名の下に、神の栄光の名の下に、相手を抹殺する歴史を繰り返していま

す。仏教では自分の悪を自覚するところから始めなければ、私の善と相手の悪の戦いになつてしまうと教えます。私たちは絶対悪の身ということからいえば、「私は正しいがあなたは悪い」でなく、「あなたも悪いが私も悪い」という懺悔(ざんげ)が根底に据えられることが大切でしょう。そのことが明快に述べられてあるのが、親鸞聖人が和国の教主として尊敬された、聖徳太子の十七条憲法の十条です。「心の中の怒りを絶ち、表情に出る怒りを棄て、人が逆らっても激怒してはならない。人にはみなそれぞれの心がある。その心にはおのおのこだわるところがある。彼が正しいと考えることを、私はまちがっていると考へ、私が正しいと考えることを、彼はまちがっていると考え、私がかんがらずしも聖者であるわけではなく、彼が愚者であるわけではない。どちらも共に凡夫にすぎないのである。正しいかまちがっているかの道理を、誰が判定できるだろうか。おたがいに賢者であり愚者であるのは、金の輪にどこという端がないようなものである。このゆえに、他人が怒つても、むしろ自分のほうに過失がないか反省せよ。自分一人が真理をつかんでいても、多くの人に従って同じように行動せよ。」人間のエゴを言い当てた言葉です。しかし、今の現実の世界は、聖徳太子の教えとは全く逆です。自分に絶対善・正義を立てて、相手を絶対悪・不正義として容赦ない殺戮・虐殺を行います。仏教とは何か、それは思想と実践との二つです。仏教は実践としては非暴力を実践するものであり、思想としては縁

起の思想です。「縁起」とは、すべてのものは固定的な実体をもたず、さまざまな原因(因)や条件(縁)が寄り集まって成立しているということですから、分り易くいえばみんな繋がりが合っていることを認識することです。だから仏(真理)の願いは絶えず一切衆生(いっさいしゅじょう)と呼びかけられています。最古の仏典スッタニパータでは「生きものを自ら害してはならない。また他人に殺させてはならない。また他の人々が殺害するのを容認してはならない」と説かれています。つまり非暴力の実践です。近代においては権力による弾圧と支配者に非暴力で抵抗した人物としては、インド独立の父と慕われたガンディーがいます。そして仏教徒に対する高圧的な政策に抗議するため焼身自殺をしたベトナム僧のティック・クアン・ドック師はその気高い動機をもって行われる自己犠牲は世界に高く評価され、黒人のキング牧師やチベットのダライ・ラマ十四世、ベトナム僧ティク・ナット・ハンなどの平和運動家に引き継がれています。実践としての非暴力は利他を目的としています。利他とは自分を犠牲にして他人に利益を与えることです。平和運動や自然環境を守る運動も大切ですが、エゴの心が少しでもあるなら結局は挫折の繰り返しになることは歴史が証明しています。強大な権力は常に己を善とし、彼を悪として抹殺しようとしています。仏のさとりと慈悲の修習です。慈悲の心を学び不断であるなら非暴力の目的とする利他を少しでも実践しようとする努力こそが尊いのです。

【寺灯雑記】

○宗祖降誕会と総永代経法要を営む

5/28

浄土真宗の宗祖親鸞聖人のお誕生を祝う降誕会と門信徒総永代経法要が初夏の爽やかな晴天の下、大勢の参詣者とともに勤められました。

午前中の降誕会では婦人会会員による祖師前への献灯・献花が行われ、お勤めは讃仏偈の意訳「さんだんのうた」が唱和されました。お内陣右の回置ではお導師住職の脇に新発意(しんぼつち)慈俊ちゃんが法衣を着けて寄り添うように座り、みんなの温かな視線を集めていました。因みに新発意とは年少の住職後継者をこう呼ぶのだそうです。

午後からは総永代経法要が営まれ、それぞれがお念仏の道へ導いてくれた亡き方々を偲ぶ中に、「正信念仏偈」を誦読いたしました。

この二法要には東京麻布組の上宮寺前住職の蔵田了然師から午前と午後にとわって「往生めでたし」・「仏事と門徒の嗜み」と題してのご法話を聴聞しました。

○夏休み子ども合宿のスタッフ会議

6/3

今夏8月19日〜20日に行われる第22回夏休み子ども合宿の打ち合わせ会が6名が出席して開かれました。

スケジュールや内容について意見交換され、昨年の総括を踏まえながら楽しく爽やかなものにしよと話し合われました。

尚、次の要綱で6月初めから参加者募集に入りました。

・日時 8月19日(土)〜20日(日)

(1泊2日)

・参加対象 小学生

・参加費 3,000円

・募集人員 30名

・締め切り 8月10日

また、子どもたちをお世話するスタッフ

(中学・高校・大学生)を募集しています。スタッフの参加は無料です。

お問い合わせはお寺まで。

○中原寺文化講演会講師と講題決まる

毎年秋に開催されている中原寺文化講演会は今年で第29回を迎えます。

開催日時は10月21日(土)午後1時30分

からいつものように山崎製パン企業年金基金会館を会場に開催されます。

講師はNPO法人日本子守唄協合理事長

の西館好子さん、講題は「仏教・時代・子守唄」に決まりました。西館さんは浅草生まれ

で劇作家井上ひさしさんの元妻で知られますが、今は、評論家であり、また子守唄を

通して、「親子の絆」「子育て支援」等に資するために、「ふれあいファミリーコンサート」等を全国で開催し大活躍されています。

どうぞ講演会を今から楽しみに皆さんに声をかけあってお出かけ下さい。

○当寺が地域の子育てサロンの場所に

社会福祉法人市川市社会福祉協議会の応援でふれあい・いきいきサロンの場として

7月から当寺が始まることになりました。

ご近所付き合いが希薄になってきている時代。サロンは、情報不足からの不安を抱

えながら子育て中のお母さんやお父さん方が、子どもと一緒に気軽に参加でき、息抜きやふれあいの場となるものです。

原則、毎月1回(第2月曜日)開催される活動

になります。今後地域社会のためにも少しでも役立つ場となればと思っております。

【法座・行事の案内】

(どなたでも自由に参加できます)

○常例法座

六月十八日(日) 一時

「正信偈と法話」

布教使 南條了瑛師(法重寺)

○高僧和讃に学ぶ

六月二十四日(土) 三時

「源空存在せしときに」から六首

解説と味わい 前住職

○婦人会法座

七月一日(土) 一時

「歎異抄からの問い」 前住職

○壮年会法座

七月二日(日) 三時

「法語カレンダーからの学び」

住職の法話をもとに座談会

○子育てサロン

七月十日(月) 十時

○門信徒役員会

七月十七日(祝日) 三時半

☆門信徒ファミリーパーティー

\*七月三十日(日) 二時開始

・第一部(会場：聞法会館)

演芸会

①バカ面踊り

(船橋の伝統芸能)

②紙切り 林家楽一

(落語協会所属の若手芸人)

・第二部(会場：駐車場)

各種模擬店

ゲーム

盆踊り

抽選会など

・参加費：1000円(小学生までは

無料)アルコール類は有料です。

第26回中原寺門信徒ファミリーパーティーは毎年夏のお寺のお祭りです。

「あえてよかつたね」の合言葉のもと、お寺を縁としてお互い家族ぐるみで楽しむ大切な親睦の輪を広げる場です。

数々の企画を満載して、老若幼男女が一緒に

なっているときを過ごしましょう。お知り合いの方も気軽にご参加ください。

(門信徒ファミリーパーティー

実行委員会より)

【六月の掲示板のことば】

仏教の学びは

こころのとりわれを 解放させていく道

\*「宿縁」の発送作業は毎回婦人会、壮年会

の有志が行っています。感謝！